

令和2年度 1/4(土) 新年明けましておめでとうございませう。  
今年も、素晴らしい年と対峙する所。  
卓上雑誌「倫理」

今週の

倫理

1月のテーマ | 目標を立てる

2020. 1. 4 ~ 1. 10

1167号

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、  
倫理研究所第二代理事長・丸山竹秋（一九二  
一—一九九九）のことばを掲載いたします。

昨年（昭和四十二年）の夏、倫理研究所・  
所歌の作詞を頼まれた。

私は辞退した。思いもよらぬことだったか  
らである。そして自信もなかった。

しかし、再三にわたるすすめで、ついに私  
は意を決した。及ばずながら、全力をあげよ  
うと誓った。

それから数日後、富士山のふもとにこもつ  
た。きめられた講義以外のしごとは、まった  
く手につかない。寝ても起きても歩いても坐  
つても、風呂に入っても、そのことばかり考  
え続けた。

そして、いろいろと熟考した結果、つぎの  
ように作詞した。

世紀の歩調

一、あめつちに 光みなぎり

さやかなかる ひとすじの道

明るく ほがらかに

果てまでひびけ 世紀の歩調

二、大自然 恵み豊かに

はるかに 行手かがやく

よろこび 働きて

高鳴りやまぬ 世紀の歩調

三、人の世に 純情（まごころ）あふれ

きずきゆく 文化のいしずえ

愛和の 旗かけ

たずさえ進む 世紀の歩調



## 「世紀の歩調」の精神

丸山竹秋

要するに、明朗、喜働、愛和と、そして純  
情の実践によって、ひとすじに世界の平和と  
人類の幸福をきざり、高らかに歩調を  
そろえて堂々と前進しようというものである。  
意あまつて言葉足らず、抽象的な言葉の羅列  
で具体性に乏しく、表現も拙劣であるけれど  
も、しかし心をこめて、苦心してつくったも  
のであることにちがいはない。

私は、真剣に考える。いったい人類は、道  
徳性といったようなこと、とくに人間尊重と  
いったようなことについては、大昔から果し  
てどのくらい進歩してきたであろうか――と。

現代人は、いわゆる文明とか文化とかの美  
名にかくれて、その実、しだいに野蠻になり  
つつあるのではないか。たとえれば戦争である。

文化とか文明とかいっても、それは、人間  
尊重をもっとも重大な基礎にして成りたつた  
でなければ無意味だということだ。たんなる  
科学技術の進歩は、それだけでは人類を幸福  
にはしない。科学技術は人間を幸福にもする  
が、不幸にもする。毒ガスは科学（それも化  
学が主）によって作られたものであるが、人  
間の生命をうばう働きもするのである。

人間尊重とは倫理性をその根本とする。広  
い意味のそして正しい意味の倫理、つまり「  
徳福一致」の倫理こそ人間尊重のヒューマニ  
ズムを確立するものだ。

世紀の歩調は、こうしたところから人間尊  
著の大道をすすんでゆき、世界の平和をきざ  
り、いってゆこうとするもつとも勇気ある人々によ  
って高鳴るのである。

『青年』1968年1月号より